

農地、水、環境向上活動 肥田町まちおこし推進活動がスタートしました

本年4月の「広報ひだ」で自治会長より「まちおこし推進運動」の実施宣言がなされ、先ず自治会、改良組合、生産組合、まちづくり委員会などヨコの関係を密に、従来の継続的な年間計画にこのたびの提案を加えて、中期的な考え方を注入したプランを相互が確認して日々行動に移ることとなりました。

今日の肥田町では、百年の思いを込めた圃場整備事業が平成18年度より実施段階に入り、平成22年に完成が予定されているという特別な町環境にあって、このたびの運動は正に時を得た並行事業と受けとめ、その成果を勝ち取るためにもその計画策定から点検管理、実践活動と町内各団体の横断的な連携が一番のポイントと理解し進めて来ています。

現在、農地、水、環境向上の運動の基本となる農地、農業用水などの資源の適切保全管理に始まり、濁水ゼロへの挑戦から水質保全への具体的な一つへの取り組みが進められています。今日までも年2回実施の町民総出の宇曾川堤防2キロにわたり草刈り、ゴミ収集の整備作業も環境美化にとどまらず、これから的新しい水源施設や水路とも密接に関連しており、また圃場整備作業の進めら



ヒメイワダレソウ 植苗作業



宇曾川堤防草刈り作業

肥田町
まちおこし
推進協議会



宇曾川堤防草刈り作業

とかく私ども高齢者は、自分たちが元々抱えている病気、生活習慣病には何としても日常生活で気にしがるくらいです。でもこれからは生活習慣病もうまくコントロールしながら、一歩前に出て、将来に寝つきなど介護が必要な状態にならないように、心身の衰えの予防や回復への取り組みも日々大切に努めていこうという提言がありました。それ自分が自分に出来る範囲で、運動機能の向上、低栄養にならないような食生活、忘れない

清潔化、ケアの常習化など総て、しっかりと習慣づくりへの努力が心身の老化を確実に予防出来ると極めて具体的な例を挙げていただき勉強出来ました。

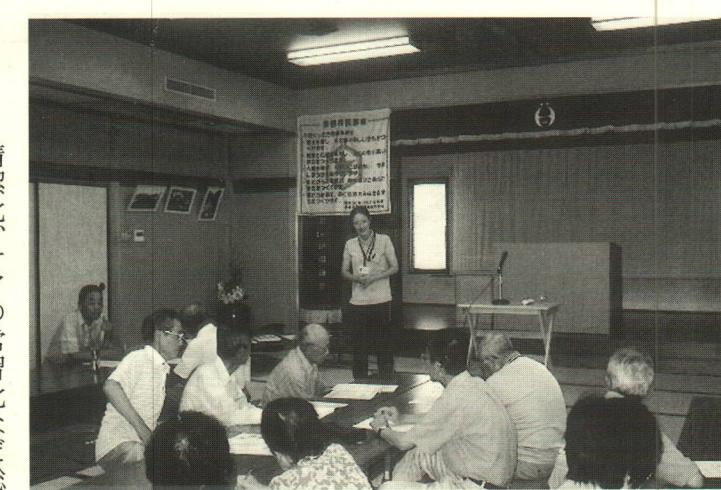
またヨコとのつながり対話を積極的に心掛け、認知症やうつ予防への対応も忘れないようになります。

トレーニングの実習の場面では、皆さん「私はまだまだ元気だ」を發揮しようと熱気の溢れたムードで幕、続けることが一番大切、明日から頑張ります。

広報ひだ
町木

第44号
肥田町
郷づくり委員会
H19.8.18発行

れた新しい用水路、排水路等を、これか
らどう長持ちさせて行くかの取り組み
も含め重要課題と受け止めています。
もう一つの視点として、次世代につな
いこととして、第一期圃場整備工事を完
了した上田地区を対象に農業用水路に
面した側壁全長250メートルについて、
畦畔の崩れを防ぐことと雑草の繁茂を
防ぐことを目的として雑草抑制芝草の
採用であります。既に試みておられる改
良区の見学など色々勉強を重ねてヒメ
イワダレ草を選び、早速に6月17日に
800苗の植苗作業を自治会、改良組合、
生産組合、農業委員と、まちづくり委員
会の役員など大勢が参加して行いました。
今後はこの試みの経過を確認して他の
地域にも広げる緑化計画の推進を考え
ています。一方で、豊かな田園の生きも
のを育てようの課題については、昔懐かしいホタル
の飛び交う町の再現は出来ないかの声に応え、實際
にホタルを養殖しておられる甲良町の方の宅にも研
修に伺いましたが、肥田の町は現在は圃場整備作業
の真っ只中にあつて養育に大切な水環境が整つてお
らず、今後も継続課題としていきたいと思つていま
す。



肥田町福寿会 ふれあい講座

「はじめましてよう介護予防」
すじすたの

れた新しい用水路、排水路等を、これか
らどう長持ちさせて行くかの取り組み
も含め重要課題と受け止めています。
もう一つの視点として、次世代につな
いこととして、第一期圃場整備工事を完
了した上田地区を対象に農業用水路に
面した側壁全長250メートルについて、
畦畔の崩れを防ぐことと雑草の繁茂を
防ぐことを目的として雑草抑制芝草の
採用であります。既に試みておられる改
良区の見学など色々勉強を重ねてヒメ
イワダレ草を選び、早速に6月17日に
800苗の植苗作業を自治会、改良組合、
生産組合、農業委員と、まちづくり委員
会の役員など大勢が参加して行いました。
今後はこの試みの経過を確認して他の
地域にも広げる緑化計画の推進を考え
ています。一方で、豊かな田園の生きも
のを育てようの課題については、昔懐かしいホタル
の飛び交う町の再現は出来ないかの声に応え、實際
にホタルを養殖しておられる甲良町の方の宅にも研
修に伺いましたが、肥田の町は現在は圃場整備作業
の真っ只中にあつて養育に大切な水環境が整つてお
らず、今後も継続課題としていきたいと思つていま
す。

当面、これから的一年は、總てに点検管理を怠らず、その過程の中で、まちおこしへの肥田町らしい新しい展開の糸口を皆で見つけたいと考えています。皆様のご理解ご協力をよろしくお願い申しあげます。

7月26日に「彦根市在宅介護支援センターいなえ」の村上佳子さんをお招きし、今日日常でもつとも関心事である介護予防について皆で考えようの集いが開かれました。なるほど身近に抱えている問題だけに50名からも会員さんが参加、分かり易い説明に共感して、よし、明日からでもその一つ一つを心掛けたいとの気持ちの伝わりを得られた講座でした。

根市在宅介護支援センターいなえの会員さんが参加、分かり易い説明に共感して、よし、明日からでもその一つ一つを心掛けたいとの気持ちの伝わりを得られた講座でした。

第1回

「人、生きものにぎわう農村フォーラム」に参加して —世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策— 7月28日

滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策協議会

既に昨年度来、県市の指導の下、各町が個々に協議を重ね計画策定に努めて来た自分たちらしい「農地、水、環境向上の農村まるごと活動」も本年度よりいよいよ実践の段階に入っています。



今回のフォーラムの開催は、その意図するところの更なる徹底と啓蒙を図る正しく「農村まるごと活動」の総決起大会であると受け止めています。

このたびの対策の背景となるところは、農地は農作物を作る場として、だけでなく、多くの生きものを育み子どもたちにも様々な体験の場も提供してくれている。また農村の豊かな自然や景観は、そこに住む人びとも安らぎやうるおいを与えてくれています。

今年度からスタートした「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」はそうした多くの恩恵をもたらしてくれる農地や農業用水などを保全して、活き活きとした農村を次の世代に引き継ぐ町民挙げての共同活動であり、これと一体となつて安全安心な農作物を生産する環境こだわり農業を進めたいと願っています。

今回のフォーラムでは本対策の優良計画町の事例発表などを通じて、より効果的な共同活動がより広く県下で進められ、人も生きものも元気で自然豊かな心安らぎ持続可能な農業であり、

農村の実現を望んでいます。

ユリと環境こだわり農産物の栽培を昨年の3倍の面積で計画を述べられた。

次いで鴨川みどりグループ（高島市）では、同じ流域の17集落を鴨川流域土地改良区が中心となつての上流から下流までが一体となつた活動取り組み。水質保全の観点から全流域の用水量の10%削減を図る高度な環境保全活動である。こだわり農産物として、水稻のほかにホウレンソウ、キュウリ、ボイズベリー、飼料イネと多岐にわたっています。

その他に今回の地区計画表彰は市原地区（東近江市）東おいそ工コ村保全会（安土町）、餅の井里守る会（湖北町）など全部で14町でした。その中で彦根市では榆町まちづくりの会―共同活動としては、用水量10%節減を図る高度な環境保全活動や自主施工による施設補修計画、営農活動については、品種別の圃地化など一元的で効率的な作業、圃場管理により、農業排水対策や環境こだわり農産物の栽培に取り組む計画がありました。

その他にたんぽの学校体験発表が高島市立マキノ南小学校、日野町立西大路小学校よりあり、地域住民の協力で種まきから稲の収穫まで実習体験、人ととの交流を通しての感謝の気持ちも醸成と報告ありました。

尼子協議会では、水環境整備事業などで整備された石積み水路や分水工、せらぎ水路など通常の施設管理以上に手間のかかる取り組みに上乗せしての「緑の回廊づくり」（これは広範囲にわたりヒメイワタレ草の植苗作業）また竹炭による水質浄化の取り組み。また

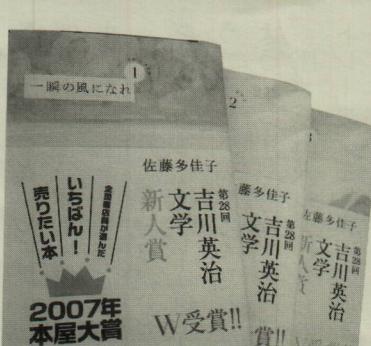
一瞬の風になれ

佐藤多佳子著
吉川英治新人賞受賞

5月20日 和み会 元気万歳 ボランティアサークルひだまり



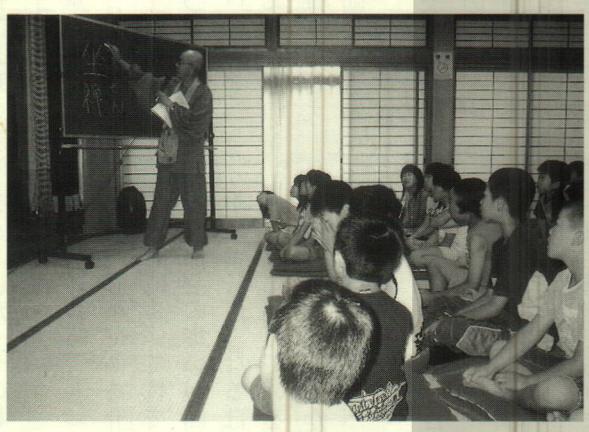
ブック紹介コーナー



「子ども座禅の集い」開く 7月27日

もう夏休みには子ども会での恒例の催しとなっていますが、肥田町の小学生30名全員が朝のラジオ体操を終えて公民館に集まります。崇徳寺の高瀬住職のご指導を得て暫し静寂な時間が流れます。座禅の心は、整身、整息、整心が基本ですが、大事なことは呼吸法で、おへそを下す、丹田へ吸い込ませるように息を吸い、そして15秒くらいかけて、ゆっくりと息を吐いていくことです。NHKテレビで京都の座禅を放映してましたが、坐禅の坐は土の上に人が座る、坐に人が二つあるのは自分の二つの姿を写し出しているという文字だと書いていましたが、ご家庭のみなさん、ちょっとした時間を見つけて3分坐禅で気分の転換ストレス解消はいかがでしょうか。

まちづくり委員会



とにかく一気に読ましてくれる、そんな共感のもてる本です。舞台は学園生活での部活動を通して人生は、世界はリレーそのものだ、バトンを渡して人つながっているところをひも解いてくれる。「ひとりだけでできない、だけど自分は走る、そのとき全く一人ひとりが助けてくれない、助けられない、誰も替わってくれない、替わらない、この孤独を俺はもつと見つめないと、飛びようなスピードが好きだ、俺の身体が巻き起こす風が好きだ、俺はスプリントのランナーだ。」というように世代を超えて読み応えがあると思う。とくに、子育てに忙しいお父さんお母さん、中学生、高校生でも年齢を超えて読んでほしい青春小説である。3巻ものですがボリュームを感じさせないところが良い。

